



総合商事会社の創立者。喜多郡内子村(現、内子町)出身。愛媛県立西条中学校(現、県立西条高等学校)に進学し、神戸高等商業学校(現、神戸大学)を卒業後、鈴木商店に入社。大正元(1912)年、ロンドン支店に赴任し、その後、弱冠28歳で支店長に抜擢された。抜群の語学力を生かして幅広い人脈を作り、早くて正確な情報収集に努め、外国人を相手に堂々とした交渉を行った。「カイザー(皇帝)を商人にしたような男」と称された誠一の活躍により、大正6(1917)年、鈴木商店は三井、三菱を上回る日本一の商社の座に着いた。第一次世界大戦後の不況により鈴木商店は倒産したが、台湾銀行などの協力を得て、鈴木商店の貿易部門を引き継ぐ形で日商株式会社(現、^{ニッポン}双日株式会社)を創立し、日本屈指の総合商社に育て上げるなど、経済界のリーダーとして大きな役割を果たした。

一方、誠一はロンドン仕込みのゴルフの知識や技能を生かして、日本初の本格的なルールブックの作成やゴルフコースの監修などに尽力し、日本におけるゴルフ界の草分けとなった。また、故郷への愛着も深く、内子町の奨学資金制度の開設や公民館建設資金の寄付、そして愛媛県内への企業の誘致など、故郷の発展に貢献した。

略歴

明治20(1887)年3月21日	喜多郡内子村に生まれる。
明治38(1905)年	愛媛県立西条中学校卒業
明治42(1909)年	神戸高等商業学校卒業 神戸の鈴木商店に入社
大正元(1912)年	鈴木商店ロンドン支店勤務
大正5(1916)年	鈴木商店ロンドン支店長となる。
大正10(1921)年	訪英中の皇太子(昭和天皇)に世界一流のゴルフプレイヤーのプレイをご覧に供する。
昭和2(1927)年	鈴木商店倒産
昭和3(1928)年	鈴木商店の貿易部門を受け継ぎ日商株式会社を創立
昭和20(1945)年	日商の代表取締役会長に就任
昭和23(1948)年	イギリスからのテロン技術導入に際し、自ら折衝にあたり成功
昭和32(1957)年	日本火災海上保険(現、損害保険ジャパン日本興亜)の社長となり再建
昭和38(1963)年	日商の会長を退任
昭和39(1964)年9月	内子町名誉町民となる。
昭和48(1973)年	母校内子小学校の開校100年を記念して、高畑奨学資金の制度の開設
昭和53(1978)年9月19日	91歳で永眠

(写真提供：高畑道明氏)

〈関連図書〉

- ・城山三郎『鼠 - 鈴木商店焼打ち事件 -』 文藝春秋 1975年
- ・桂芳男『総合商社の源流 鈴木商店』 日本経済新聞社 1977年
- ・愛媛新聞社情報センター『愛媛県人名大事典』 愛媛新聞社 1987年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・『愛媛人物博物館 人物探訪第6集』 愛媛県生涯学習センター 2004年

〈主な収蔵資料〉…(P206~207, 52~53)

〈ゆかりのある場所〉…(P284~285, 84~85)